



# Battery Management System

## (BMS) アプリ取扱説明書

## 目次

- 03. 説明と機能
- 04. バッテリー電圧と音質
- 05. アプリのダウンロードとインストール
- 05. アプリの使用
- 06. バッテリーセクションの選択
- 08. メインダッシュボード画面
- 09. 設定セクション
- 12. 充電サイクルの変更
- 13. 暗証番号の変更
- 14. 落雷と出荷モード

## BMS 概略

バッテリー管理システム(BMS)アプリは、Olympus ミュージックサーバーの充電回路へのメインゲートウェイです。Bluetooth 経由でサーバーと直接通信するこのアプリは、ネットワーク操作などの知識、熟練技術は必要ありません。サーバーへの接続や設定のためのシンプルで信頼性の高い方法を提供します。

## BMS 機能

Olympus サーバーには 2 つの独立したバッテリーセクションがあり、BMS アプリで独立して表示されます。Olympus I/O には 3 つ目と 4 つ目のバッテリーセクションがあり、合計 4 つの独立したバッテリーセクションがアプリに表示されます。

Olympus サーバーのみをお持ちの場合は、2 つのセクションのみが表示され、Extreme サーバーと Olympus I/O をお持ちの場合は、I/O の 2 つのバッテリーセクションのみが表示されます。

オリンパス・サーバーでは、最初のバッテリー・セクションがコア・システムに電力を供給します。バッテリーが常時充電されるように構成されており、バッテリー電源の技術的な利点と、より小さなセルサイズの実用的な利点を兼ね備えています。第二のバッテリーセクションは XDMI 出力カードに電力を供給し、従来のバッテリーのようにサイクルで充電されるように構成されています。

Olympus の I/O を追加すると、サーバーの 2 つ目のバッテリーセクションは、Olympus を I/O に接続するサーバーの XDMI インターフェイスカードに電力を供給するように再構成されます。

オリンパス I/O では、1 つ目のバッテリーセクションがネットワークカードに電力を供給し、2 つ目のセクションが I/O の XDMI インターフェイスカードと XDMI 出力に電力を供給します。

理想的なバッテリー状況を維持するため、Olympus サーバーの第 2 バッテリーセクションと Olympus I/O の両セクションには、00:00～07:00 の充電サイクルがあらかじめプログラムされています。これらのバッテリー・セクションの充電周期は、ユーザーの予定、習慣に合わせて自由に調整することもできます。

## バッテリー電圧と音質

バッテリーの充電は音質に直接影響します。

- システムバッテリーの最低推奨電圧は 13.6 V です。
- XDMI バッテリーの推奨最低電圧は 12 V です。

## ダウンロードとインストール

BMS アプリは Apple App Store や Android Play Store から無料でダウンロードできます。Taiko BMS」で検索してください。アプリは携帯電話やタブレットで動作します。

インストール後、アプリの名前は iPhone/iPad では「Taiko」、Android では「Taiko BMS Monitor」となります。名称とアイコンは、将来更新、整理される予定です。

## アプリの使用について

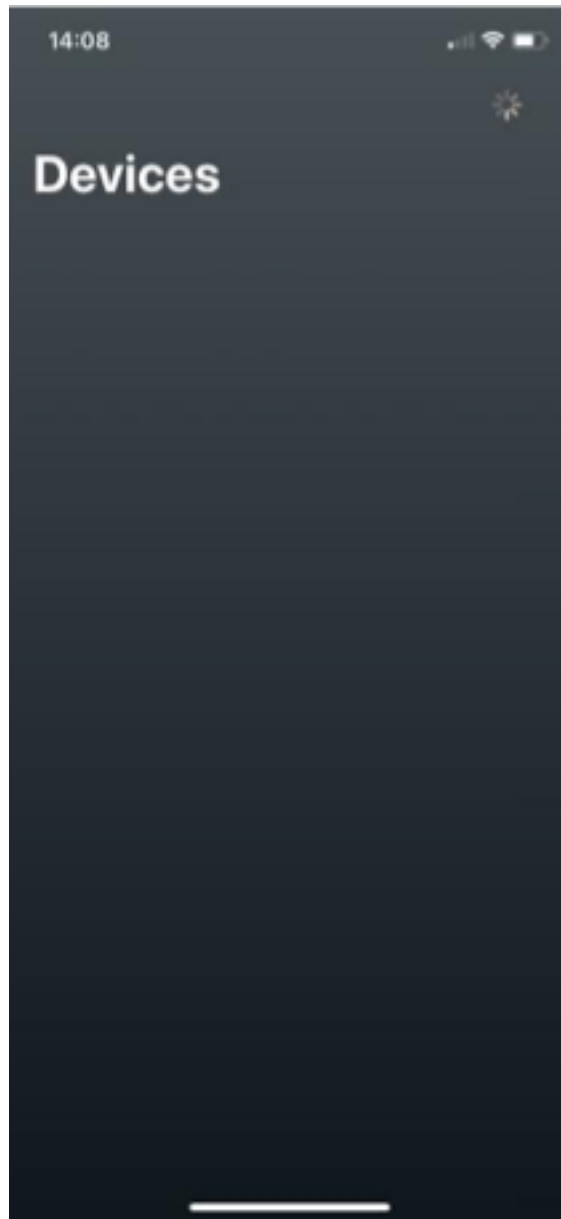
初めて起動する時に、アプリは Bluetooth の使用許可を求めます。サーバーを検索できるように許可してください。アプリは自動的にサーバーを見つけて接続し、その後、ユーザーに PIN コードを入力するよう促します。デフォルトのコードは 000000 (0 を 6 回入力) です。

アプリが Bluetooth でサーバーに接続されると、タイムゾーン、時刻、日付が自動的に設定されます。バッテリーロジックの情報がアプリに同期されるまで数秒かかります。

## 注意事項 (ご協力をお願いします。)

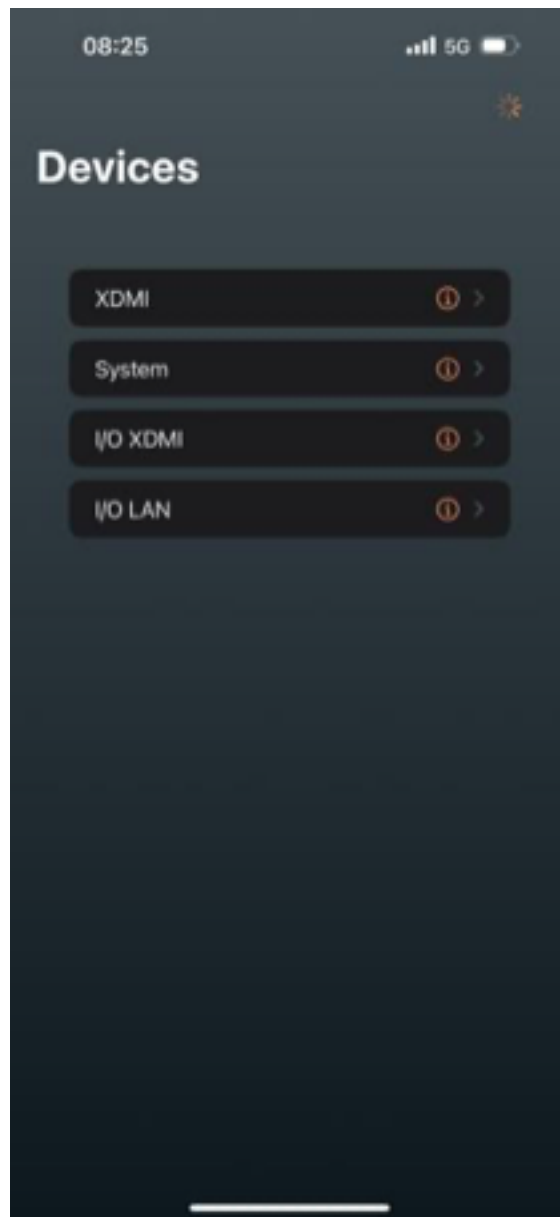
PIN コードをお忘れの場合、工場出荷時のデフォルトにリセットすることで、Taiko のみが知っているキーを復活させることができますが、追加の手順が必要なためにサポートに負担がかかかってしまいます。コードに十分ご注意ください。デフォルトの 000000 のままにしてくださいようお願いいたします。

検索中、またはサーバーが AC 電源から切断されているか、電源が入っていない場合、アプリの「デバイス」画面には以下のようにデバイスが表示されません。



(サーバーが AC 電源から切断されているか、電源が入っていない状態)

データがロードされると、アプリはすぐに使用できるようになります。下の例では、オリンパスサーバーとオリンパスI/Oの2つの独立したバッテリーセクションが示されています。



検出されたバッテリーセクションから、確認または調整したいものをタップしてください。次に、メインのダッシュボード画面が表示され、最も関連性の高いパラメータが素早く表示されます。



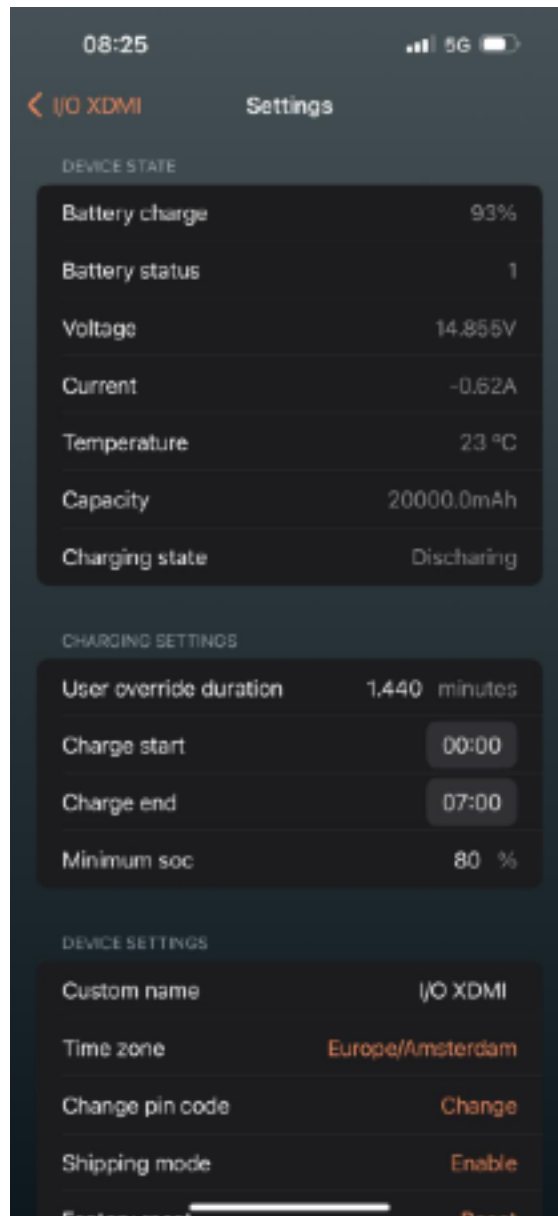
(メインダッシュボードスクリーン)



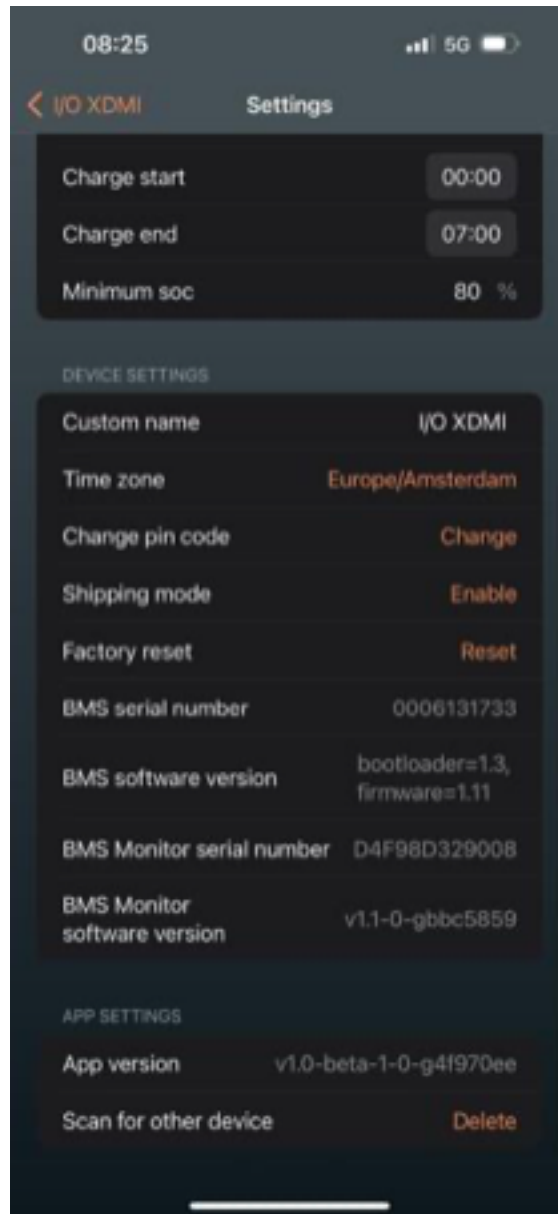
ダッシュボードのメイン画面から、右上の歯車をタップして設定画面に入ります。



すべての設定は連続した一覧画面で表示され、スクロールダウンすることですべての設定に到達できます。

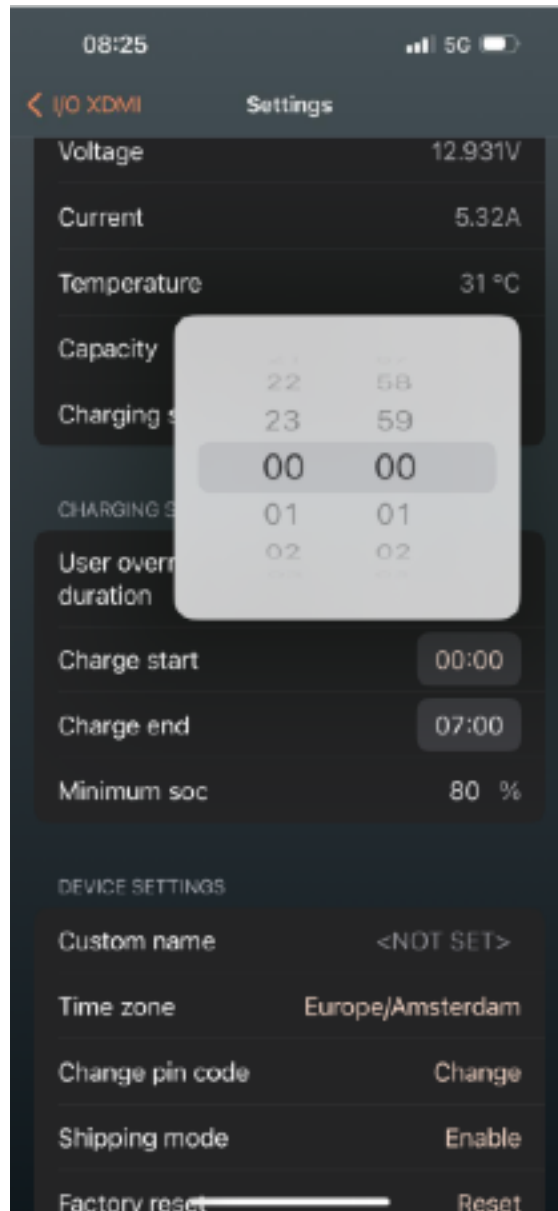


(メイン設定画面、p1)



(メイン設定画面、p2)

ほとんどの設定は左側の項目でそのままお分かりいただけますが、そのうちのいくつかをご紹介します。まず、充電サイクルを変更するオプションがあります。設定するには、充電開始と充電終了の欄を選択し、希望の時間を入力してください。フル充電までの平均充電時間は 7 時間です。もちろん、サーバーは部分充電でも使用可能で、充電中でも動作します。



必要であれば、ユーザーは PIN コードを変更することができますが、これは必須ではなく、ユーザー次第です。コードは 6 桁でなければなりません。



(PIN コードの変更)

## 雷雨や稲光について

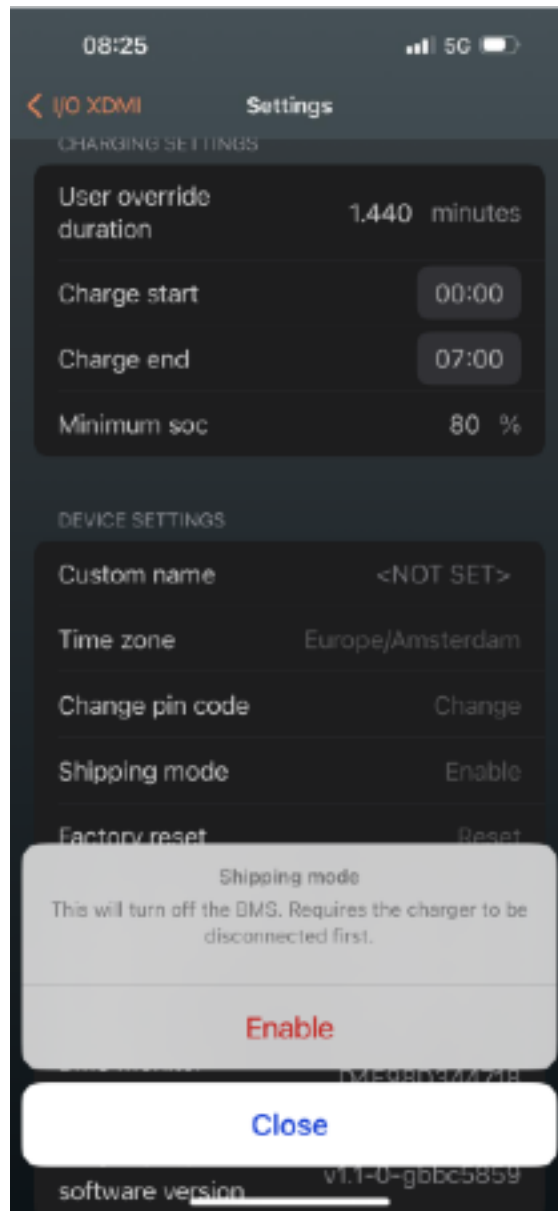
雷雨や稲光によるダメージが心配な場合は、通常の配電盤の代わりにサージプロテクタ配電盤を並列に設置し、サーバーを一時的にそこに接続するのが良い解決策です。これによってサーバーは保護され、バッテリーの充電も可能です。

## 出荷モード (Shipping Mode)

サーバーが AC 主電源から 2 時間以上切り離されることが予想される場合、出荷モードに設定することができます。これにより、コンデンサが放電され、マザーボードと XDMI カードがシャットダウンされます。この後、本機は安全に無期限に切り離れたままにしておくことができます。このような状態でユニットは TAIKO 本社から出荷されます。

手順： 背面スイッチで AC 電源を切ります。バッテリーセクションがシャットダウンするまで約 40 秒かかります。ユニット天板の穴から前面右側のセクションを覗くと、緑色のランプが消灯しているでしょう。その後、BMS アプリを使用し、各バッテリーセクションの出荷モード(Shipping Mode) を選択します。

AC 主電源を再接続すると、サーバーは自動的に出荷モードから通常使用モードに切り替わり、演奏に備えます。



(出荷モード: Shipping Mode)